

市民のみなさま、いつも変わらない暖かいご支援をいただきまして、心より感謝申し上げます。

3月議会は、翌年度の予算を決める重要な議会でした。私は一般会計予算と水道事業会計予算、後期高齢者医療特別会計予算などに反対しました。一般質問では①公競売入札妨害起訴事件について、②荒尾市ウェルネス拠点施設（仮称）整備・運営事業及びあらお海陽スマートタウンの経済波及効果の推計について、の2点について取り上げました。また今年に入り、潮湯のボイラーが故障し3回も休館する事態となり、緊急要望を行いました。以下報告します。なお、この記事へのご質問やご相談などがございましたら、お気軽にお電話をお寄せ下さい。

日本共産党市議会議員

北園としみつ

お問い合わせ・ご相談は
090-7461-3989 まで



「道の駅」に24億円もの市税を投入して失敗しないのか 市民には知らされておらず、周知と説明会開催を求めましたが・・・



財政負担の周知や住民説明会開催は先送りの答弁

競馬場跡地への「道の駅」と「保健・福祉・子育て支援施設」（いずれも仮称）を同時に建設し運営していくために、荒尾市が総額48億6,624万1千円を負担することになり、うち「道の駅」が24億円を占めることが明らかになりました。しかし、市民には知らされず、荒尾市の負担はないと思っている市民が少なくありません。私は“広報あらお”で周知し、説明会開催を求めましたが、執行部は先送りする姿勢でした。こんなことでいいのでしょうか。

副市長・・・一番市民の方々がお知りになりたいのは、ウェルネス拠点施設がどういう施設で、何が出来るのかということ。そのことを十分伝えたい。今年中に事業者が決まり、施設の姿が明らかになった段階で説明をやっていきたい。

浅田市長・・・現時点で施設内容について説明するのは難しい。事業者が決まり、設計方針や運営方針が決まった段階で市民説明会は計画したいので、しばらく待ってほしい。

今後荒尾市が毎年1.9億円を負担

「道の駅」と「保健・福祉・子育て支援施設」の開設後、荒尾市が毎年約1.9億円を拠出し「道の駅」の負担が半額を占める計画です。令和22年度まで負担し、一般財源で資金が確保できなければ、財政調整基金を充てる等の対応になります。財政に余裕がない中、暮らしや福祉予算への影響を心配します。

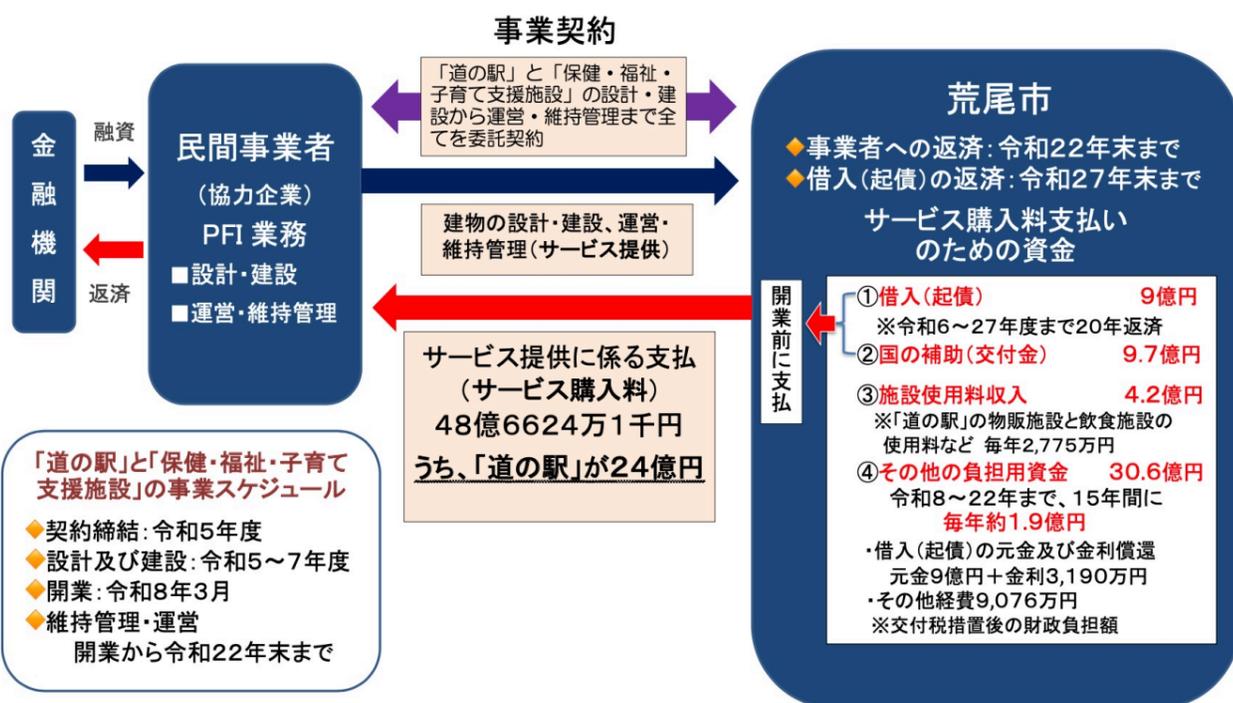
「道の駅」使用料等年2775万円を見込む

「道の駅」の物販や飲食施設などの使用料収入見込です。「道の駅」への来客者数を年間74万人（1日約2000人）と想定して算定されていますが、来客者数が落ち込み、計画収入を下回る場合は委託事業者が責任を持つとの説明でしたが、運営が行き詰まった場合には契約解除となり、市は新たな事業者を探すという説明でした。その場合でも市は金融機関からの借入の返済は続けねばならず、開業から15年間そのまま来客者を確保できるのでしょうか。

アジアパークの失敗を繰り返さないように

私は「保健・福祉・子育て支援施設」は必要と思いますが、近隣の「道の駅」が客数の落ち込みで赤字になり苦戦している中で、24億円という高額な規模の計画は見直し、地元で根ざして小規模な開設から実績を積み上げる運営手法に改めるよう求めました。

今後荒尾市が負担していく費用の全体概要図



「道の駅」請願署名の記載の正しさを確認しました

2200名を超える市民から寄せられた請願署名に対し、「市は債務者にならない」「市は金融機関からの借入はない」「道の駅あらお」は独立採算型である」等の誤った認識に基づいて、請願内容が「事実と異なる」等とする事実誤認を正すことができました。

総務部長が12月議会の答弁を訂正
「道の駅あらお」は独立採算型であり会計検査院が指摘したPFI事業に該当しない」とした答弁を訂正し、該当する「混合型」であることを認めました。

会計検査院は全国でPFI事業の経営破綻や行政が直接行うより委託した費用が高額になった事例などを指摘しています。PFI方式は全国で破綻が増加しており、私は一貫して反対してきました。

公競売入札妨害起訴事件について質問しました！

すでに新聞等で報道されている、荒尾市が発注した市立小学校2校の空調設置工事にかかわる不正入札事件について、再発防止の視点から質問を行いました。しかし、執行部は責任を認めず、今後のチェックの実施や過去の調査についても行おうとはせず、再発防止策も手薄としか思えない、あいまいな答弁に終始しました。

北園・・・施工実績はなぜチェックしなかったのか。行政としての責任があるのではないかと。

総務部長・・・形式上（書類が揃っているかどうか）の審査は行っているが書類のどこに偽りがあるか見抜くことはできない。実績があるということで事前の誓約書をとっている。（行政の責任は認めず）

北園・・・これだけの事件が発覚し、マスコミで大きく取り上げられている。行政としては過去にさかのぼり調査すべきではないかと。

総務部長・・・今回の契約書は、民民（民間企業間の実績書類）の契約であり行政として内容を知ることができず、調査は難しい。

北園・・・再発防止のために、今後は施工実績のチェックを行っていくべきではないか。すべてを行う必要はなく、新規の申請や初めて異業種の入札申請がされたものについてやっつけにいけばいいのではないかと。

総務部長・・・今後はさらにもう一つの誓約書や警察との連携を進めていきたい。

最後に、私は荒尾市の再発防止策では不十分と受け止め、今後の再発防止へ向けた3つの提案を示し、執行部の検討を求めました。

詳しくはホームページ「荒尾市議会 議会中継」の録画を視聴下さい。



再発防止へ向けて3つの提案を行いました

1、先行自治体の取り組みに学ぶ

①不正行為防止のため入札監視委員会を設置する。②制限付き一般競争入札は、地域事情を踏まえ制限を緩和し参加業者を増やし競争力を高める。③不正入札業者に対し指名停止期間を延長する。以上を荒尾市でも取り組むべきです。

2、荒尾市独自の公契約条例を制定する

熊本県が今年9月の県議会に「熊本県公契約に関する条例案」の上程を計画しています。県は締結する公契約に関し「透明性、競争の公正性の確保、談合、その他の不正行為の排除」という適正な契約の締結を第1に掲げています。荒尾市も独自の公契約条例を制定すべきです。

3、公正取引委員会の指摘に学ぶ

①職員が事業者・職員OB等からの働きかけを受けた場合に文書化して報告することを義務付ける。②職員のコンプライアンスの向上のために、独占禁止法、入札談合等関与行為防止法関係の研修を徹底する。③公正取引委員会は、予定価格や指名業者名の公表について、入札前の公表は談合発生への情報となり、予定価格が目安となり落札価格の高止まりとなる恐れがあるなどを指摘し予定価格の公表は入札後に行うべきであると提言。平成31年1月現在、都道府県で33団体70.2%、指定都市で16団体80.0%、市区町村で961団体55.8%が予定価格等の事後公表を行っています。荒尾市も、このように見直すべきです。

全36議案中30議案に賛成し6議案に反対しました

3月議会は、主に4月以降の次年度の予算を議決する議会でした。私は反対議案の中で、一般会計予算、水道会計予算、インボイス意見書、後期高齢者医療会計予算、令和3年度一般会計補正予算、市職員の給与引き下げに関する条例に反対し、以下3件について討論を行いました。

「令和4年度荒尾市一般会計予算」反対討論

荒尾二造周知予算が未計上、同和団体への補助継続「道の駅あらお」へ24億円の予算は見直すべき

本予算には、免許返上の高齢者移動を含めた地域公共交通活性化事業費や子育て世代包括支援センター事業費等々の積極予算については評価しますが、荒尾二造周知を軽視し、同和関連補助金は据え置き、「道の駅」関連の24億円もの予算は高額すぎるために反対し、「道の駅」は予算規模を縮小し、慎重な計画の見直しが必要だと指摘しました。

「令和4年度荒尾市水道会計予算」反対討論

水道事業を民営化した自治体の中で荒尾市だけが委託会社の経営状況を開示せず委託料の適否が判断できない本予算の支出の大半が民営化による包括委託費となっています。資本的支出に中の建設改良費の95%以上約7億円を占め、この工事の入札

に行政は一切関与せず業者丸投げの委託となります。包括委託費の適否は委託先企業の経営状況からも判断することになりますが、全国で荒尾市だけが情報開示しておらず、2023年度には水道料金引き上げが計画されており、このまま民営化を継続して妥当かどうかの検証のためにも、荒尾市が委託企業の経営情報を開示するよう求めました。

「インボイス意見書」反対討論

この意見書は「実施時期の延期を含めたインボイス制度の適正な運用を求める」とされており、国の実施計画を容認するものインボイスは「適格請求書」と言い、2023年10月から導入される計画です。これが導入されれば、これまで消費税を納めなくてよかった小規模事業者には新たな税負担がのしかかり、今は課税業者が免税業者から仕入れた場合、消費税がかかっているとみなして控除できますが、今度はインボイスのない仕入れでは、みなし控除は認められず、多くの課税業者は免税業者との取引をやめることが想定されます。それを避けるため、これまでの免税業者も課税業者になる意外にありませんが、赤字経営になっても消費税を納めざるをえなくなり、経営が苦しい事業者の倒産や廃業が強く懸念されます。本意見書は国の実施計画をそのまま容認するもので、シルバー人材センターが求める「安定的な事業運営」などは望めません。インボイスは中止する以外にないと指摘しました。

潮湯の度重なるボイラー故障への対策について要望しました

潮湯は高齢者にとって健康維持と癒しに不可欠な施設になってきているにもかかわらず、今年に入りボイラー不調で三度も休館になりました。浅田市長は施政方針で「暮らしたいまち日本一」をめざすと言われましたが、こんな状況でどうしてできるのでしょうか。

このような事態が頻繁に繰り返されるようなことがあってはなりません。止むを得ない突発の事故ならまだしも、施設全体が老朽化しており、想定される機器などの故障を未然に防ぐように、計画的な改修が必要です。

いつ、また故障して休館となるのか心配しながら利用せざるを得ないような不安を解消し、バス停から危険な坂道を歩かないでいいように、交通手段の利便性も充実させることなど、「暮らしたいまち日本一」をめざすのであれば、まず足元の不自由を強いられる弱者の支援を最優先にすべきではないでしょうか。

もう、いい加減に、ボイラーは新品に入れ替えるべきです。これらのことを、しっかりと検討していただくよう要望しました。

